

新北見市史 上巻 目次

九 イベント・まつり……………六

刊行のことば

北見市民憲章

口 絵

序編 北見市の概要

| | |
|---|---|
| 一 自然環境…………… | 一 |
| 位置／面積／河川／山地／気候 | |
| 二 人口…………… | 二 |
| 三 交通アクセス…………… | 二 |
| 道路／鉄道／都市間バス／空路 | |
| 四 市紋章・木と花…………… | 二 |
| 五 自治区…………… | 三 |
| 自治区の特色 | |
| 六 産 業…………… | 三 |
| 安全・安心な農畜産物／オホーツクの自然と共存した漁業／ 豊かな森を活かした林産物 | |
| 七 名 産…………… | 四 |
| ホタテ・カキ・ホツカイシマエビ／白花豆／玉葱／たまご餅 ／北見焼き肉／オホーツク北見塩やきそば／木工品 | |
| 八 名 所…………… | 四 |
| 常呂遺跡／開拓記念碑（土佐地区）／鎖塚／北光社開拓記念広 場／屯田兵人形（信善光寺）／ピアソン記念館／北見ハツカ 記念館／武華駅通（留辺蘂開拓資料館）／おんねゆ温泉・山の 水族館／ワツカ原生花園／エゾムラサキツツジ群落／大カシ ワ／屯田の杜公園／屯田公園／石倉公園／金刀比羅さくら公 園（上ところ）／仁頃はつか公園／野付牛公園／カタクリ | |

第一編 先史時代とその文化

第一章 北海道の先史時代と時代区分……………七

第一節 北海道の先史時代……………七

第二節 北海道の時代区分……………七

第二章 旧石器時代……………一

第一節 旧石器時代の文化と人類……………一

一 「旧石器時代」とは……………一

二 北見に人類が出現するまで……………一

人類の祖先の出現と進化／旧石器文化の出現と発展

第二節 旧石器時代の北海道の環境……………三

一 旧石器時代の気候……………三

氷期と間氷期／後期旧石器時代の気候変動

二 旧石器時代の地理と動植物……………一五

後期旧石器時代の地形・地理／後期旧石器時代の植物／後期
旧石器時代の動物

第三節 旧石器時代の北海道の遺物……………一八

一 旧石器文化の記録……………一八

二 石器の種類と分類……………一九

後期旧石器時代の石器とその分類／石器の種類／細石刃／石
器の石材／石材の産地

三 旧石器文化の変遷と年代……………二六

後期旧石器時代の資料と年代／北海道の旧石器時代の始まり

／北海道の後期旧石器時代と時期区分／後期旧石器時代前半
期の遺跡と石器群／後期旧石器時代前半期の遺跡の年代／後
期旧石器時代後半期の遺跡と石器群／後期旧石器時代の終わ

りと縄文時代の始まり

第四節 旧石器文化の人々……………三六

一 後期旧石器時代の北海道の生活……………三六

後期旧石器時代の生活／狩猟採集と移動生活／後期旧石器時代前半期の移動生活／後期旧石器時代後半期の移動生活……………三九

二 後期旧石器時代の北海道人……………三九

後期旧石器時代の北海道人はどこから来たか／細石刃製作者の移住と縄文土器製作者の移住／先史時代人の遺伝子と系統……………四一

第五節 北見市内の主な旧石器時代の遺跡……………四一

一 市内の旧石器時代の遺跡の概要……………四一

北見市内の旧石器時代の遺跡／北見市内の旧石器時代の遺跡の特徴……………四二

二 広郷8遺跡……………四二

遺跡の位置／発掘調査／層序と遺物の出土状況／出土した石器群と時期／その他……………四六

三 岐阜第二遺跡……………四六

位置／発掘調査／遺物と出土状況／石器群の時期……………四八

四 大正1遺跡……………四八

位置／発掘調査／遺物と出土状況……………四八

五 北進遺跡……………四八

位置／発掘調査／遺物と出土状況……………五三

六 本沢1遺跡……………五三

位置／発掘調査／遺物と出土状況……………五五

七 北上4遺跡……………五五

位置／発掘調査／遺物と出土状況……………六二

八 紅葉山遺跡……………六二

位置／発掘調査／遺物と出土状況……………六二

一〇 広郷18遺跡……………六五

位置／発掘調査／遺物と出土状況……………六八

一一 吉井沢遺跡……………六八

位置／発掘調査／遺物と出土状況／石器群の編年的位置付け……………七三

一二 北上台地遺跡……………七三

位置／発掘調査／遺物と出土状況……………七七

一三 中本遺跡……………七七

位置／発掘調査／遺物と出土状況……………七七

一四 小泉3遺跡……………七七

位置／発掘調査／遺物と出土状況……………八三

一五 川東3遺跡……………八三

位置／発掘調査／遺物と出土状況……………八五

一六 北上2遺跡……………八五

位置／発掘調査／遺物と出土状況……………九四

第一章 縄文文化とは……………九四

第一節 縄文文化とは……………九四

一 縄文文化の特徴……………九四

環境と文化の特質／縄文時代の時期区分／旧石器時代からの移行をめぐって……………九五

二 道東北部の縄文文化……………九五

北限の縄文文化／北方地域との交流……………九五

三 常呂川流域の環境と遺跡……………九五

サロマ湖の地形発達に見る環境の変化／ウルリントウ低地における古環境の変化／常呂川流域における縄文時代の遺跡の分布……………九八

第二節 縄文時代草創期から早期前半までの北見市……………九八

一 縄文時代草創期……………九八

北海道における縄文草創期の石器群／北見市内の遺跡……………九八

| | | | |
|--|-----|--|-----|
| 二 縄文時代早期前半 | 九九 | 位置／発掘調査／遺跡の概要 | |
| 縄文早期前半の北海道東部／北見市内の遺跡 | | 二 トコロチャシ跡遺跡群(史跡常呂遺跡) | 一二七 |
| 第三節 縄文時代早期後半の北見市 | 一〇一 | 位置／発掘調査／遺跡の概要 | |
| 一 石刃鍬石器群の文化 | 一〇一 | 第四章 続縄文時代 | |
| 石刃鍬石器群とは／石刃鍬に伴う土器／北見市内の遺跡／川東羽田遺跡について | | 第一節 続縄文時代前半期 | |
| 二 縄文時代早期後葉 | 一〇三 | 続縄文文化とは | 一三一 |
| 東釧路式系土器を伴う文化／北見市内の遺跡／竪穴住居跡 | | 「続縄文」という名称／続縄文時代の時期区分／縄文時代からの変化／変化①鉄器の導入／変化②漁撈への傾斜／変化③階層化の萌芽／変化④北方地域との交流／続縄文人の形質 | 一三一 |
| 第四節 縄文時代前期から後期前葉までの北見市 | 一〇五 | 続縄文時代前半期の北見市 | 一三四 |
| 一 縄文時代前期前半 | 一〇五 | 続縄文前半期の地域区分と北見市の位置付け／北見市内の遺跡分布 | 一三五 |
| 縄文前期前半の北海道東部／北見市内の遺跡／綱文式土器を含む遺物包含層／竪穴住居跡 | | 二 北見市内の集落跡と墓 | |
| 二 縄文時代前期後半から中期前半 | 一〇八 | 続縄文時代の竪穴住居跡の数／前半期への偏り／竪穴住居跡の特徴／竪穴住居跡の具体例／墓の分布／前半期の墓の特徴／柱穴を有する墓／琥珀玉の大量副葬／石鍬の大量副葬／管玉の副葬／「多副葬墓」とその意味／埋葬 | 一三五 |
| 縄文前期後半から中期前半の道東部／「岐阜ⅡA群」の土器／網走式土器／「常呂川河口押型文土器群」／北筒式土器との関係について／北見市内の遺跡／竪穴住居跡／石囲み炉跡群 | | 第三節 続縄文時代後半期 | |
| 三 北筒式土器の文化 | 一一三 | 続縄文時代後半期における変化 | 一四五 |
| 縄文中期後半から後期前葉の道東部／北筒式土器の編年／縄文中期と後期の境はどこか／北見市内の遺跡の分布とその変化／環境変動の影響はあったのか／貝塚／竪穴住居跡 | | 斉一性の高まりとその背景 | 一四五 |
| 第五節 縄文時代後期中葉から晩期までの北見市 | 一一七 | 続縄文時代後半期の北見市 | 一四六 |
| 一 縄文時代後期中葉から後期末 | 一一七 | 北見市内の遺跡分布／オホーツク文化との関係 | 一四七 |
| 縄文後期中葉から後期末の道東部／北見市内の遺跡／竪穴住居跡／墓／生業活動に関わる遺構 | | 北見市内の集落跡と墓 | 一四七 |
| 二 縄文時代晩期 | 一二〇 | 竪穴数の減少と居住形態の変化／二つのタイプの竪穴／住居と作業施設の併設／墓の分布／後期の墓の特徴／伝統的な要素が残る墓／合葬墓／ガラス玉を納めた墓／鉄製品を納めた墓／多副葬墓の比率 | 一四七 |
| 縄文晩期の道東部／北見市内の遺跡／竪穴住居跡／多数の副葬品を伴う墓／希少な製品が副葬された墓 | | 四 北方との交流 | |
| 第六節 主な遺跡 | 一二五 | 北方系の土器 | 一五三 |
| 一 トコロ貝塚 | 一二五 | | |

| | |
|--|-----|
| 第三節 主な遺跡 | 一五三 |
| 一 常呂川河口遺跡 | 一五三 |
| 位置／発掘調査／遺跡の概要 | |
| 二 中ノ島遺跡 | 一五六 |
| 位置／発掘調査／遺跡の概要 | |
| 第五章 擦文時代とオホーツク文化・トビニタイ文化 | 一六一 |
| 第一節 オホーツク文化 | 一六一 |
| 一 オホーツク文化とは | 一六一 |
| オホーツク文化の年代と拡がり／特徴①外来の文化／特徴② 海洋民の文化／特徴③動物儀礼／遺跡の分布とその変化／北 見市のオホーツク文化 | |
| 二 北見市内の集落跡と墓 | 一六一 |
| 集落跡の内容と規模／オホーツク文化の竪穴住居跡／壁と柱 の構造／建て替えと家を焼く行為／墓が作られた場所／墓と 葬法 | |
| 三 生業と儀礼 | 一六五 |
| 動物利用と植物利用／道具類①狩猟具・漁撈具／道具類②容 器類・装飾品など／動物儀礼①竪穴住居跡内の骨塚／動物儀 礼②動物をかたどった遺物 | |
| 四 周辺諸文化との交流 | 一七二 |
| 大陸系遺物／本州系を含む擦文文化からの遺物／交流の変化 | |
| 第二節 オホーツク文化の主な遺跡 | 一七四 |
| 一 トコロチャシ跡遺跡群(史跡常呂遺跡) | 一七四 |
| 位置と発掘調査／遺跡の概要 | |
| 二 常呂川河口遺跡 | 一七六 |
| 位置と発掘調査／遺跡の概要 | |
| 三 栄浦第二遺跡(史跡常呂遺跡) | 一七七 |
| 位置／発掘調査／遺跡の概要 | |
| 第三節 擦文時代 | 一八一 |
| 一 擦文文化とは | 一八一 |
| 擦文文化の年代と拡がり／「擦文」とは何か／土器型式編年 による細別／擦文文化の特徴／特徴①本州東北部からの影響／ 特徴②漁撈を基本とする生業／遺跡立地の傾向とその背景／ 北見市における文化の「交代」 | |
| 二 北見市内の集落跡 | 一八五 |
| 北見市内の遺跡分布／集落跡の立地と規模／同時に存在した 竪穴の数と人口／竪穴住居跡／墓はつくられたか／「廃屋墓」 の可能性 | |
| 三 市内の出土遺物から見た擦文文化 | 一九〇 |
| 土器／紡錘車／木製品／骨角器／鉄器／鍛冶関連遺物／北方 地域との交流を示す遺物／産地不明の金属製品／動物遺体／ 植物遺体／土器付着炭化物の分析 | |
| 第四節 擦文文化の主な遺跡 | 一九五 |
| 一 岐阜第三遺跡 | 一九五 |
| 位置／発掘調査／遺跡の概要 | |
| 二 常呂竪穴群(史跡常呂遺跡) | 一九六 |
| 位置／発掘調査／遺跡の概要 | |
| 三 岐阜台地西部地域竪穴群 (史跡常呂遺跡「ST06」ST09遺跡)」 | 一九七 |
| 位置／発掘調査／遺跡の概要 | |
| 四 常呂川河口遺跡 | 一九九 |
| 位置と発掘調査／遺跡の概要 | |
| 第五節 トビニタイ文化 | 二〇〇 |
| 一 トビニタイ文化とは | 二〇〇 |
| オホーツク文化の変容とトビニタイ文化の成立／トビニタイ 文化の分布と時期区分／前半期のトビニタイ文化／後半期の トビニタイ文化 | |

二 市内で出土したトビニタイ文化の資料……………二〇一
 北見市内のトビニタイ文化／竪穴住居跡／擦文文化圏の中の
 トビニタイ文化／トビニタイ土器が出土した遺跡

第六章 アイヌ文化期……………二〇八

第一節 考古学上の「アイヌ文化」とは……………二〇八
 一 考古学から見た「アイヌ文化」……………二〇八
 擦文文化の終焉と「アイヌ文化」／アイヌ文化を特徴づける遺
 跡／アイヌ文化期の時期区分
 二 北見市内の遺跡……………二一〇
 チヤシ跡／送り場遺跡／アイヌ墓／低湿地の遺跡など

第二節 主な遺跡……………二一五

一 トコロチャシ跡遺跡群（史跡常呂遺跡）……………二一五
 位置と発掘調査／遺跡の概要
 二 ライトコロ川口遺跡……………二一七
 位置／発掘調査／遺跡の概要

第七章 北見市内の遺跡一覧……………二二〇

第一節 北見市内の遺跡一覧について……………二二〇
 一 旧石器時代の遺跡……………二二〇
 二 縄文時代の遺跡……………二二〇
 三 続縄文時代／アイヌ文化期の遺跡……………二二〇
 第二節 北見市内の遺跡一覧表と遺跡地図……………二二〇

第二編 歴史時代の幕開け

第一章 松前藩の蝦夷統治……………二五一

第一節 松前藩以前の蝦夷地……………二五一
 蝦夷と蝦夷地／コシヤマインの乱……………二五二

第二節 松前藩の成立……………二五一

松前藩の蝦夷地統治／宗谷場所の設置と寛文九年の乱／
 場所請負制／ウイマムとオムシャ／ロシアの進出／天明
 の蝦夷地調査／国後・目梨の乱／御救交易／ラックスマン
 の来航／寛政十年の蝦夷地調査

第二章 幕府の蝦夷地直轄と北方情勢……………二六一

第一節 幕府の蝦夷地統治……………二六一
 幕府による蝦夷地直轄統治／レザノフの来航とロシア人
 の襲来／北辺の警備／ゴロヴニン事件と高田屋嘉兵衛／
 文化年間の常呂／辛藤野の進出／宗谷アイヌの疫病と飢
 饉

第二節 松前藩の復領……………二六七

松前藩の復領／松前藩復領後の常呂／箱館開港／嘉永七
 年の蝦夷地調査

第三節 幕府の再直轄……………二七一

館奉行所の設置／紋別御用所と細野五左衛門／諸藩の蝦
 夷地調査と調査記録／松浦武四郎と常呂／箱館奉行と上
 役衆の巡察／交通路と渡船／安政年間の常呂／常呂の撫
 育漁／アイヌの生活／会津藩による警護

第三章 明治初期の北見……………三〇〇

第一節 開拓使と北見……………三〇〇

開拓使の設置／国郡名の制定／松本十郎の見た北見／辛
 藤野と場所請負制の廃止／村の設置／オムシャの廃止と
 賑恤規則／樺太・千島交換条約

第二節 戸長役場の設置……………三〇八

大小区制／三原一局時代／常呂外六カ村戸長役場の設置
 ／外国人が見た常呂

第三編 常呂・北見・留辺蘂・端野・相内のあゆみ

序章

| | | |
|------|---|-----|
| 第一節 | 戸籍編製 | 三二五 |
| | 壬申戸籍／村名制定／戸長は漁場差配人 | 三二五 |
| 第二節 | 網走郡役所開設 | 三二六 |
| | 三県一局時代／常呂外六カ村戸長役場 | 三二六 |
| 第三節 | 開拓政策の転換 | 三二七 |
| | 北海道三県巡視復命書／北海道庁設置／北海道全域の地形図整備／北海道土地払下規則 | 三二七 |
| 第四節 | 殖民地撰定事業 | 三二九 |
| | 北海道殖民地撰定報文 | 三二九 |
| 第五節 | 殖民地画測設事業 | 三二九 |
| | 一戸分の変遷／殖民地画測設／上常呂・下常呂原野の区画地測設／殖民地撰定及区画施設規程 | 三二九 |
| 第六節 | 団結移住 | 三三〇 |
| | 北海道国有未開地処分法 | 三三〇 |
| 第七節 | 北見道路開削と駅通 | 三三一 |
| | 北見道路開削／駅通 | 三三一 |
| 第八節 | 北見屯田の配置 | 三三二 |
| | 北海道長官永山武四郎／道庁による設置場所撰定／従来 の撰定諸説／副官小泉正保の踏査 | 三三二 |
| 第九節 | マッチ軸木の生産 | 三三三 |
| | 原木のドロ／北海道での軸木生産／山田製軸所 | 三三三 |
| 第一〇節 | 農業政策の転換 | 三三四 |
| | 北垣長官による稲作推進／酒匂常明／嘱託試験制度／北海道農会／現役屯田兵の米作り公認／「坊主」の発見／た | 三三四 |

こ足／オホーツク管内の米作り／北海道土功組合法／土地改良区制度

第一節 国際商品薄荷の登場

根室県で薄荷栽培検討／本州での薄荷栽培／山形地方の薄荷／薄荷貿易業者の台頭／山形薄荷の衰退／北海道薄荷栽培の始め／渡部精司

第二節 北海道開拓と鉄道

幌内で石炭発見／鉄道敷設法／北海道開拓意見具申書／北海道鉄道敷設法／鉄道国有法／網走線

第一章 常呂

第一節 明治期の常呂

戸長役場設置後の常呂／常呂川の架橋／駅通の設置／網走常呂漁業組合の設立／市街地の形成／下常呂原野の殖民地撰定と区画／高知団体の入植／大分団体の移住／野付牛・生顔常村の分村／岐阜団体の入植／明治三十一年の洪水／川沿への入植／定期航路の開設／常呂外四カ村農会の設立／大茶苗・手師学方面の入植／教育所の設置／社寺の創設／青年会と興仁館／常呂大火と義勇消防組／明治期における常呂川の洪水／常呂遺跡の発見

第二節 大正期の常呂

鑑沸村の分村／二級町村制の施行／仮定県道と渡船／常呂橋の架替／鑑沸漁業組合の成立／第一次世界大戦と常呂／学校の設置と青年団／初期の林業／大正期の常呂川の氾濫／常呂川治水工事の陳情／常呂川治水計画／常呂川下流域の治水工事／湧網線の促進

第三節 昭和初期の常呂

サロマ湖新湖口の開削／経済恐慌と凶作／湧網線の陳情と着工／村役場庁舎建設と『常呂村史』の編纂／自動車運輸の開始／昭和初期の道路／常呂産業組合の設立／農会

第四章

から農業会へ／常呂漁業協同組合の成立／ホタテの養殖
／字名地番改正／鉄山の開山／太平洋戦争と常呂

戦後の常呂……………三七四

終戦と常呂／六三制教育と常呂高等学校の開校／農地改
革と農業協同組合／商工会の設立／新制度下の漁業協同
組合／土地改良事業の開始／常呂村立病院の建設／森林
組合の創設／町制の施行／中湧網線の着工／簡易水道着
手／オホーツク災害／常呂漁港の完成／昭和期の宗教／
戦後の交通／国力鉦山の隆盛と閉山／常呂遺跡と東京大
学常呂実習施設／網走国定公園の指定／常呂川の氾濫と
改修工事／開基八十周年と『常呂町史』の編纂／常呂川の
汚染／さけます孵化場と海藻類人工採苗場／常呂高等学
校の道立移管／農家の減少と農業の大規模化／有線放送
電話の実施と合理化澱粉工場の設置

第五章

昭和後半期の常呂……………三八九

役場庁舎の建設／サロマ湖第二湖口の開削／開基九十周
年と町民憲章／中学校の統合／小学校の閉校／広域簡易
水道開始／常呂バイパスの着工／常呂カーリング協会の
設立／齋藤町政／開基百年／全国豊かな海作り大会開催
／湧網線廃止

第六章

平成期の常呂……………三九九

姉妹都市の調印／平成の齋藤町政／ワツカ地区の車両乗
入禁止へ／常呂川河口改修計画と河口遺跡の発掘／手形
の里構想／井上町政／各地域の開基百年／下水道供用開
始と資源ごみ分別収集／オリンピックとカーリング／中
心市街地活性化基本計画の策定／井原町政／町制施行五
十年／新北見市への歩み

第二章

野付牛村から北見市へ……………四二二

第一節

野付牛のはじまり……………四二二

第二節 屯田歩兵第四大隊の設置……………四二三

松浦武四郎／野付牛村／原鉄次郎

一 屯田兵制度概略……………四二三

屯田兵制度の起源／八王子千人同心／徴兵令／兵役免除／土
族救済の土族屯田／屯田憲兵例則／屯田兵の優遇と統制／農
業を知らない土族／西南戦争参戦／軍人勅諭／国民皆兵／徴
兵逃れ／平民屯田／『屯田兵及び家族教令』／日清戦争／第七
師団創設／屯田兵制度の終焉

二 北見屯田……………四二七

電信事務開始／北見屯田開拓の主力は家族／給与地はクジ引
き／厳格な指導／ゴシヨイモ屯田／日露戦争と第七師団の動
員／旅順要塞攻略／奉天会戦／日露講和条約／日露戦争の犠
牲者／一時賜金／北海道移民の増加

第三節 北光社移民団……………四二一

一 高知と北海道のつながり……………四二一

坂本龍馬／自由民権運動／武市安哉

二 北光社移民団……………四二二

坂本直寛／北光社設立／北海道へ／入地後の苦難／病死する
子供たち／食糧を自給自足／坂本直寛の離脱／明治三十一年
の大洪水／その後の北光社／澤本楠彌／前田駒次／黒田農
場

第四節 野付牛外一カ村戸長役場……………四二五

一 市街地……………四二五

番外地／一番乗りは武藤半平／住人は屯田兵関連業者

二 野付牛外一カ村戸長役場……………四二六

三 第四大隊解散後の市街地……………四二七

第五節 野付牛の開拓……………四二七

一 農民の願望は米作り……………四二七

野付牛最初の米作り／三輪光儀と北見屯田の米作り／当麻

屯田の稲作試行／北見屯田での稲作試行奨励／野付牛屯田での大灌漑溝工事／北海道庁地方農事試験場北見分場の設置／初代分場長安孫子孝次／その後の米づくり

二 商品作物薄荷の登場……………四三一

野付牛村最初の薄荷栽培／屯田兵による薄荷栽培／野付牛村が薄荷の主産地になった理由／薄荷景気／悪徳業者の横行

三 サミュエル事件……………四三四

サミュエル商会／大暴騰／大手業者の奸策／市場最低価格／訴訟合戦／結末は不明

四 工業の始まり……………四三六

マッチ用の製軸から／製材から合板へ／丸玉王国／丸玉王国の落日

第六節 鉄道開通……………四三七

一 北見鉄道速成運動……………四三七

エレコーク／北見鉄道速成期成会／野付牛同志会／網走線開通とタコ／野付牛村／野付牛停車場／建設列車／中央市場との直結／正式開駅／移住者の増加

二 湧別線……………四四〇

常紋トンネル

第七節 野付牛の発展……………四四一

一 公有地処分……………四四一

公有財産としての土地／タネ川公有地／村長からの依託／野付牛殖産合資会社／公有地売却／全道注目野付牛／北見電気株式会社／北見勸業株式会社

二 都市基盤の形成……………四四二

新市街／駅前商店開店／井上伝蔵／地域の娯楽／医者町の町／三井木挽工場／野付牛大火

三 大正時代の繁栄……………四四四

第一次世界大戦／豆景気／電灯が点灯／野球の流行／ピアノン宣教師夫妻／ホーリネス教会／野付牛実業協会／浮世小路

／北見第一神田館／梅乃家／稲荷小路／夜店通り

四 野付牛村から野付牛町へ……………四四七

分村と野付牛町誕生／帝国製麻株式会社野付牛製線工場／森永製菓株式会社第十一工場

五 銀行の進出……………四四八

根室銀行／北海道拓殖銀行／十二銀行／一力無尽株式会社／野付牛商工会

六 教育機関の整備……………四四九

北海道庁立野付牛中学校／北見女子職業学校／北海道常呂郡野付牛女子職業学校

第八節 北見市誕生……………四五〇

一 石北線開通……………四五〇

南瓜団体の陳情／石北線開通／野付牛ビルディング

二 世界を制した北見薄荷……………四五一

米作と薄荷／道による薄荷品質検査／田中式薄荷蒸溜機／北連の進出／北見薄荷工場

三 戦争と地域農業……………四五二

パン食と小麦／日清製粉株式会社野付牛工場／野付牛酒精工場／薄荷の衰亡

四 市制施行準備……………四五三

野付牛信用組合／野付牛町役場全焼／市制実施の準備／野付牛療院の開院／看護婦養成開始／野付牛防護団結成／関崎町長就任と新庁舎竣工／天才倶楽部／警防団の設置／商工会議所創立／関崎町長死去

五 市制施行、北見市誕生……………四五六

高橋峯治町長／ラジオ放送／翼賛壮年団／市制施行手続き／北見市に改称／市制施行／高橋峯治初代北見市長／戦時体制／松下航空木材(株)北見工場の開設／配電の統制、映画館の休止

六 戦争末期から敗戦へ……………四五七

熊部隊の駐屯／国民義勇隊／北海道大空襲／無条件降伏／敗
戦処理／ソ連参戦／シベリア抑留／菅季治

第九節 戦後混乱からの復興

- 一 日本占領……………四五九
- 北海道への進駐／B級戦犯平手嘉一……………四六〇
- 二 食糧危機……………四六〇
- 三 集団帰農から戦後開拓へ……………四六〇
- 集団帰農／緊急開拓……………四六一
- 四 農地改革……………四六一
- 第一次農地改革／第二次農地改革／当市における農地改革／
戦災者・引揚者・復員・ベビーブーム……………四六二
- 六 公職追放……………四六三
- 町内会の結成禁止／高橋市長退職／忠魂碑を平和塔に……………四六三
- 七 文化復興の動き……………四六三
- 出版ブーム／文芸同人誌の発行／俳誌『阿寒』／市立図書館創
立／NHK北見放送局開局／北見市営球場開設／北見文化連
盟(第一次)／公民館の開設……………四六五
- 八 市長公選……………四六五
- 地方自治の拡充／北海道長官選挙／市長公選……………四六五
- 九 六三制・新制中学校・新制高等学校……………四六五
- 日本国憲法と教育／教育基本法・学校教育法／新制中学校開
校／新制高等学校発足……………四六六
- 一〇 地域経済の復興……………四六六
- ヤミ屋／引揚者の苦難／東京マーケット／あけぼのマーケッ
ト／引揚者用バラック店舗／映画館の再開／松下木材株式会
社の発足……………四六八
- 一一 混乱と犯罪……………四六八
- 丸茂博君誘拐殺人事件／津別事件／大山事件と小林事件／中
央小学校職員強盗殺人事件……………四七七

一二 梅田事件……………四六九

冤罪事件／再審決定／無罪判決……………四七〇

一三 都市の基礎整備……………四七〇

上水道整備／都市ガス整備／北海道開発庁……………四七〇

一四 街並みの変化……………四七〇

夜店通りから市営四条マーケットへ／姿を消した露店マー
ケット／鉄道官舎の移転／分譲された官舎跡地……………四七一

一五 菊花展から菊まつりへ……………四七一

原点／第一回目／全市の行事に……………四七一

一六 字名変更……………四七一

当用漢字の影響／字名等の確定……………四七一

一七 北海道立北見診療所……………四七二

不治の病、結核／北海道立北見診療所開所／病床種別変更／
北海道立北見病院に改称……………四七二

一八 北見パルプ工場……………四七三

農業関係者との折衝／深刻な汚染発生／汚水対策要求運動／
公害対策基本法／工場移転……………四七三

一九 洞爺丸台風とその影響……………四七四

台風一五号(洞爺丸台風)／風倒木処理／大雪国道……………四七四

第二〇節 高度成長期……………四七五

一 市庁舎建設……………四七五

二 開基六十年・市制施行十五年……………四七六

『北見市史』発行……………四七六

三 相内村合併……………四七六

昭和の大合併／北海道が主導／北見市に吸収合併……………四七六

四 甜菜と製糖工場……………四七七

てん菜生産振興臨時措置法／芝浦精糖株式会社北見製糖所設
置……………四七七

五 北見工業短期大学から北見工業大学へ……………四七七

| | |
|---|-----|
| 工業短期大学設置／五島慶太からの寄付／大学昇格 | |
| 六 都市整備の進展 | 四七八 |
| 泥んこ道／都市計画事業に着手／区画整理事業の開始／農事試験場の訓子府移転／旧墓地廃止と新官庁街／競馬場が東陵公園に／市街地中心部の変貌／下水道の整備／北見総合都市計画 | |
| 七 職場と住居の分離 | 四八一 |
| 公共住宅団地の造成／木工団地・卸売団地・工業団地の造成／民間団地の造成／松下木材(株)本社工場の移転／映画館の盛衰／女性の社会進出 | |
| 八 玉葱の隆盛 | 四八二 |
| タマネギバエの防除／北見玉葱生産組合から北見市玉葱振興会へ／北見地区玉葱振興会 | |
| 九 市政の転換 | 四八二 |
| 転換期の滝野市政／図書館・博物館併設開館／宇佐美市政／北見市総合計画／高栄団地造成 | |
| 一〇 地域からの文化創造 | 四八五 |
| 息を吹き返した文化活動／第二次北見文化連盟の発足／市民会館建設／『北見市史』の刊行 | |
| 一一 北見からの文化発信 | 四八六 |
| 林白言／小池喜孝／安藤美紀夫 | |
| 第一一節 公共投資の時代へ | 四八九 |
| 一 日本列島改造論 | 四八九 |
| 二 企業誘致 | 四九〇 |
| ゴトーサン／北見市工業団地の造成／北見東京電波／サイバネット工業／京セラ北海道北見工場／北見ハイテクパーク／株式会社カンテック／円高政策からバブル経済へ | |
| 三 北海学園北見大学 | 四九一 |
| 研究学園都市／北海学園訪問／北海学園北見大学設立期成会／新設案・条件の提示／認可申請／審議開始／第二次申請／開学／北見女子短期大学／札幌移転 | |
| 四 鉄道踏切解消による市街地整備 | 四九四 |
| 鉄道踏切が交通障害に／北見市総合計画では／石北本線鉄道連続立体交差化事業／石北本線鉄道高架事業／東四丁目アンダーパス／鉄道跡地の整備 | |
| 五 北網圏北見文化センター | 四九五 |
| 美術館建設を想定／田園都市中核施設整備事業(仮称)北網圏総合文化センター／事業指定／事業の進行／正式名称・北網圏北見文化センター／施設概要 | |
| 六 小中学校の改築と新設 | 四九六 |
| 老朽木造校舎の改築／小学校の改築／中学校の改築／小中学校の新設 | |
| 七 高等学校教育の再編成 | 四九八 |
| 北見商業高等学校の新設／北海道北見緑陵高等学校の新設 | |
| 八 交通体系の変化 | 四九八 |
| 国鉄財政悪化／国鉄民営化／民営化の影響／空路の整備 | |
| 九 東急・大型店・コンビニ進出と地元商店街 | 四九九 |
| きたみ東急デパートと駅前再開発／イトーヨーカ堂／いとう百貨店閉店／続く大型店の進出／コンビニの進出／卸売業の衰弱／ビジネスホテルの増加／中心市街地商店街の衰退 | |
| 一〇 北見抗争事件 | 五〇〇 |
| ヤクザとテキヤの違い／山口組の北海道進出騒動／星川組の北見進出／山口組分裂の影響／花田組長射殺／星川組長射殺／暴力追放運動 | |
| 第二二節 バブル経済の波及 | 五〇二 |
| 一 快適居住都市づくり | 五〇二 |
| 美山地区の整備／富里湖森林公園／モイワスポーツワールド | |
| 二 太陽エネルギーの研究開発 | 五〇三 |
| ソーラーチャレンジイン北海道／太陽エネルギー研究の端緒 | |

| | |
|--|-----|
| ／太陽エネルギー利用研究／ソーラーシステムの設置／ソー ラーヒートポンプシステム／ソーラーカー製作／太陽光発電 普及の取り組み | |
| 三 開基一〇〇年 | 五〇五 |
| 開基記念事業基金／北見市開基一〇〇年記念事業の準備／開 基一〇〇年祝賀行事／記念碑・記念出版物 | |
| 四 北見芸術文化ホール | 五〇六 |
| 中ホール建設運動／音楽専用ホール浮上／北見芸術文化ホ ール／施設概要 | |
| 五 日本赤十字北海道看護大学 | 五〇七 |
| 道内に看護大学を／当市に決定／地方拠点都市地域指定を活 用／設置計画決定／設置場所の変更／新予定地決定／設置申 請／開学 | |
| 第二三節 バブル崩壊後 | 五〇九 |
| バブル崩壊／当市でのバブル崩壊後のこと | |
| 一 ふるさと銀河線の興亡 | 五一〇 |
| 特定地方交通線の廃止／地北線運行対策準備会発足／北海道 ちほく高原鉄道株式会社設立／ふるさと銀河線の営業開始／ ふるさと銀河線関係者協議会の設置／ふるさと銀河線の廃止 | |
| 二 『北見現代史』の刊行 | 五一一 |
| 北見叢書刊行会／市史編さん事業の再開／市史編さん事務室 開設／『マップンケシ』の発行／市史編さん委員会設置／編集委 員会発足／専門委員委嘱／「史稿」・資料類発行／『北見現代 史』発行 | |
| 三 平成の大合併 | 五一三 |
| 国・道による合併促進／当市も合併へ | |
| 四 新庁舎建設 | 五二三 |

第三章 留辺蘂

| | |
|--|-----|
| 第一節 留辺蘂開拓の原点、中央道路 | 五二四 |
| 一 中央道路 | 五二四 |
| 留辺蘂町内における中央道路／犠牲者の遺骨発掘／中央道路 開削犠牲者慰霊の碑建設 | |
| 二 駅通所の開設 | 五二六 |
| 四号・五号駅通の開設／北見国常呂湧別出張復命／五号駅通 ／千葉新太郎／五号駅通取扱人 遠藤藤次郎・藤太郎／華園 農場（本願寺農場）／瑞穂地区明治の入植者たち | |
| 三 温泉開発及び屯田兵等の入植 | 五二六 |
| 国澤喜右衛門と温根湯温泉出願／留辺蘂の開拓と屯田兵／温 根湯温泉の創業後／観光功労者国澤喜右衛門・大江與四蔵 | |
| 四 造材・林産業の始まり | 五二九 |
| 造材事業／林産業の始まり | |
| 五 明治末期の市街地区画 | 五三〇 |
| 留辺蘂市街／温根湯市街 | |
| 六 学校の始まり | 五三一 |
| 相内尋常小学校所属特別教授場の開校 | |
| 第二節 武華村分村そして留辺蘂町へ | 五三二 |
| 一 鉄道の開通 | 五三二 |
| 留辺蘂駅の開業／想像を絶する難工事常紋トンネル／幽霊話 と歎和地蔵／人柱の発見とオホーツク民衆史講座／常紋トン ネル工事殉難者追悼碑建設運動 | |
| 二 農場入植と団体入植 | 五三六 |
| 千葉農場／黒田農場／愛媛団体が上金華に入植 | |
| 三 人口の増加と分村 | 五四〇 |
| 人口の急増／分村と町名変更／村役場の建設／第一次温根湯 分町問題／奥地開拓と武華駅通・上武華駅通 | |
| 四 初期の農業 | 五四七 |

| | | |
|-----|--|-----|
| 五 | 大正時代の造材・林産業 | 五四九 |
| | 造材・林産業／官行斫伐事業の始まり | |
| 六 | 温根湯温泉 | 五五〇 |
| | 温根湯までの貨客輸送／旭川第七師団転地療養所／温根湯エ ゾムラサキツツジ群落の発見 | |
| 第三節 | 昭和・終戦まで | 五五一 |
| 一 | イトムカ水銀鉱の発見 | 五五二 |
| | 鉱区出願・砂金ブーム／イトムカ水銀鉱の発見／イトムカ鉱 山操業開始／イトムカ鉱山の戦中戦後／昭和二十年十月二十 七日事件／慰霊碑を建てる会が発足／終戦直後のイトムカ 鉱山 | |
| 二 | 留辺蘂管林署の開庁 | 五六〇 |
| | 森林鉄道の延伸 | |
| 三 | 農業者の協同 | 五六一 |
| | 武華産業組合設立の経緯／産業組合草創期／組合員の拡充／ 冷害凶作下で／産業組合の充実／農事実行組合の設立／農会 の設立／農業の状況 | |
| 四 | 自動車会社の設立 | 五六四 |
| 五 | 町勢要覧に見る昭和初期の町の姿 | 五六五 |
| | 役場庁舎の改築 | |
| 六 | 仲町大火と石倉 | 五六九 |
| | 仲町大火／大火の教訓と石倉／石倉と留辺蘂軟石 | |
| 七 | 留辺蘂の戦没者 | 五七〇 |
| | 日露戦争から太平洋戦争まで／留辺蘂からも特攻隊員 | |
| 第四節 | 昭和・終戦からのまちづくり | 五七二 |
| 一 | 終戦からの復興 | 五七二 |
| | 終戦時の混乱と復興／衣食の欠乏／伝染病の発生／いち早い 婦人会の結成／戦後復興期に活躍した青年団／普通選挙初の 町長／六・三・三・四制と教育環境の整備／富岡地区(旧置戸 | |
| | 村幸岡の一部)の編入／泉地区(北見市西相内地区の一部)の 編入／二農協の誕生／商工会議所の設立／温根湯温泉観光協 会の設立／温根湯軌道利用組合／温根湯分町問題／みどり祭 りの始まり／洞爺丸台風と森林鉄道／森林鉄道の廃止／森林 鉄道と映画／作家中山正男 | |
| 二 | 進む基盤整備 | 五八七 |
| | 藤倉町政の誕生／水道事業の取り組み／国道三九号の開通／ 国道三九号開通と観光／初の町史編纂／町民憲章制定／役場 庁舎の建設／母子健康センターの設立／藤倉町政から坂本町 政へ／町旗・町花・町木の制定／町長へ手紙を出す運動／知 的障害者更生施設の建築整備／養護老人ホーム静楽園の建設 ／町営温泉滝の湯荘／大和ノーマライゼーションエリアの指 定／滝湯地区の温泉ボーリング／米生産調整に対する稲作転 換／留辺蘂特産白花豆の栽培／白花豆商品開発の取り組み／ 大船渡青年会議所と留辺蘂青年会議所の友好締結 | |
| 三 | 昭和五十年代以降 | 五九六 |
| | 社会教育施設整備と全国大会等の招致など | |
| | 公共下水道事業の着手／中央公民館など社会教育施設の整備 ／充実する体育施設／はまなす国体弓道競技と福祉とスポー ツの町宣言／開町七十周年記念事業と町民劇場の取り組み | |
| 第五節 | 平成の時代 | 五九八 |
| 一 | 厳しい財政状況の中で | 五九八 |
| | はまなす国体の開催／全国大会・大学合宿など／特別養護老 人ホーム希楽苑の開設／ふるさと創生事業と国際交流派遣事 業／坂本町政から小田町政へ／留辺蘂町開基一〇〇年事業／ 定住化を目指して／道の駅おんねゆ温泉／巨樹の森とコン サート／青少年会館木工陶芸工作室／町立図書館の建設 | |
| 二 | 町の存亡をかけたの取り組み | 六〇三 |
| | 小田町政から南川町政へ／商店街近代化と中央通り街路事業 ／「るべしべ光星苑」の移転改築と愛町債／廃棄物処理とPF | |

工事業／温根湯診療所の開設／まきばの里山村留学(瑞穂小
学校)／区制から自治会への移行

第六節 産業の低迷と人口の減少

一 企業の閉鎖、転出……………六〇六

分村後の最多人口は一万九百九十三人／イトムカ鉱山の閉鎖／
イトムカ興産株式会社の設立／日本繊維株式会社留辺薬田麻
工場／三井木材工業株式会社／北興化学工業株式会社／企業
誘致／企業立地促進条例

二 町内産業の状況……………六一一

林産業の状況／農業の状況／商業の状況／観光の状況

三 留辺薬田林署の閉鎖……………六一四

第七節 合併への動き……………六一五

地方交付税の削減と行政改革・財政対策／地方制度調査会最
終答申を前に／常呂郡西部三町広域行政協議会／任意合併協
議会への参加／留辺薬田の明るい未来を考える会／住民投票
直接請求／合併へ

第四章 端野

第一節 分村前の状況

一 地名の由来……………六二一

二 草分けの人々……………六二二

三 区画地・区画外地の開拓のはじまり……………六二二

四 下野付牛兵村の解体後……………六二三

兵村諮問会の解体／日露戦争へ従軍／下野付牛兵村部落部会
／旧下野付牛兵村部落の進展／新部落の誕生

五 村会議員の誕生……………六二八

六 公共施設等の整備……………六二八

七 産業組合の誕生……………六二九

八 開拓二〇周年記念……………六二九

第二節 分村

一 分村の気運……………六三一

二 分村の陳情……………六三一

三 役場の開設……………六三三

四 最初の村会と財政……………六三三

五 部の設置と祝賀会……………六三四

六 役場庁舎の建設……………六三五

七 その他の村の基盤づくり……………六三六

八 その後の状況……………六三六

大正十一年／大正十二年／大正十三年／大正十四年／大正十
五年／農作物作付け状況

九 開村三〇周年記念……………六三八

第三節 昭和の戦前・戦中期

一 村の行財政……………六四〇

一級町村と村是／予算等／その他の行政

二 納税組合……………六四二

三 教育・文化……………六四三

尋常小学校の拡充と就学奨励／国民学校へ／青年訓練所／女
子青年団から青少年団へ／青年学校／文化施設

四 農業……………六四六

凶作と農事実行組合の誕生／優良産地を目指して／作付作物
の状況／家畜／産業組合の合併から農業会／自作農と標準農
村の指定／戦時下の食糧増産

五 その他の産業……………六四九

林業／商工業

六 社会事業……………六五四

敬老会／衛生及び医療／救護及び扶助／戦時下の社会事務／
その他

七 消防組と警防団……………六五五

| | |
|---|-----|
| 八 公共工事・施設など | 六五五 |
| 九 戦時体制 | 六五六 |
| 兵事事務／村内組織体制／統制物資／戦況の悪化 | |
| 第四節 昭和の戦後期 | 六五九 |
| 一 終戦後の混乱 | 六五九 |
| 昭和二十年／昭和二十一年／昭和二十二年／昭和二十三年／昭和二十四年／昭和二十五年以降 | |
| 二 村の新しい行財政 | 六六〇 |
| 財政難の克服／各機関等の改革／開拓記念／初めての住民直接請求／貯蓄推進運動 | |
| 三 民主教育へ | 六六四 |
| 新たな学校教育のはじまり／うれしい学校給食／修学旅行の再開／新しい社会教育の出現／教育委員会の設置 | |
| 四 医療と福祉 | 六六九 |
| 身近な医療と保健指導／充実が始まった福祉 | |
| 五 農業 | 六七二 |
| 戦後開拓と食糧確保／自作農及び農地改革／新しい農業にむけて／農協等の誕生／農業委員会の誕生と農事懇談会等の開催／分家問題と農業労務者／村営牧場の開設と畜産振興／農業基本調査／冷害対策／作物別の作付け状況 | |
| 六 その他の産業 | 六七七 |
| 林業関係／商工業関係／端野村商工会の発足／石油油槽所の林立 | |
| 七 公共工事及び公共施設等 | 六八一 |
| 道路・橋梁及び公営住宅の整備／端野郵便局の移転新築問題 | |
| 第五節 町制施行後 | 六八三 |
| 一 町制の施行へ | 六八三 |
| 二 端野町の誕生 | 六八三 |
| 三 町民憲章の制定 | 六八四 |
| 四 開基・分村の周年記念 | 六八五 |
| 五 町づくりの土台 | 六八六 |
| 初めての端野町総合計画と端野町農業振興地域整備計画の策定／人口減少のはじまり／過疎化問題の対策／身近な町政を目指して／イベントの誕生／町おこしの立ち上げ／市街化の青写真／民間リゾート開発事業の受入 | |
| 六 変貌する学校 | 六九一 |
| 中学校統合／小学校統合／統合後の地域の核として／学校給食の統一／道立北見商業高等学校の開校 | |
| 七 社会教育の充実 | 六九四 |
| 農業青年大学の開設／端野町婦人団体協議会／少年団体の発足／端野町体育協会の誕生／文化連盟の誕生／社会教育施設の整備／郷土芸能の復活と創造／はたちの集いの発足／はまなす国体のキャッチフレーズ | |
| 八 保育所の開設と幼稚園の創立 | 六九八 |
| 公設保育所の開設／端野若葉幼稚園の創立 | |
| 九 高齢者への視点 | 六九九 |
| 老人クラブの誕生と老人大学／老人福祉のはじまり／老人医療無料化の試み | |
| 一〇 生活環境の向上 | 六九九 |
| 衛生問題から水道へ／成人病予防の先取／医療の確保／交通網の発展／交通安全／公営住宅建設と宅地分譲／町内の電話とテレビの普及／経済発展とごみ問題 | |
| 一一 変化する農業 | 七〇四 |
| 農業の近代化／農家の減少／造林ブーム／農協農業の転換期／農業後継者問題／大型農業機械へ移行／大規模な土地改良事業と農業基盤整備 | |
| 一二 そのほかの産業等 | 七〇七 |
| 端野町商工会の設立／企業等の進出／廃止となった商店・事業所等／端野地区労働組合協議会の設立 | |

第六節 平成の時代……………七二〇

一 新たな時代へ……………七二〇

田園文化交響曲(第二期端野町総合計画)／端野町の教育目標
／田園文化交響曲第二楽章(第四期端野町総合計画)／第二次
端野町行政改革の断行／指定管理者制度の導入

二 リゾートと温泉の開発……………七二三

リゾート開発／端野温泉の湧出と整備

三 生活環境の充実……………七二五

簡易水道の拡張／下水道の着手と完成／新たな住宅施策／拡
充する公共施設等／環境を守る施策／産業廃棄物の処理施設

四 地域福祉の成熟化……………七二〇

高齢社会への対応／保育所・児童館の閉庁と子育て支援セン
ター開設／個人病院の開院と診療所の廃止／民生委員・児童
委員

五 社会教育の飛躍と変化……………七二三

端野町公民館／陶芸工房／町の文化財保護及び自然保護／そ
他の目覚ましい文化・体育活動／生涯学習の取り組み／社
会教育団体の衰退／社会教育委員

六 学校教育の新たな取り組み……………七三〇

学校に語学指導助手の導入／各学校の特出する事項／学校で
のコンピュータ授業／緋牛内小学校の閉校／児童生徒数／各
学校長

七 交流事業の拡大……………七三二

ふるさと子ども交流事業／まち独自の海外研修／一〇〇年記
念事業／姉妹都市交流／各字区の記念事業等／五〇年の思い
／神輿の復興／定着したイベント交流／自治会の統合／端野
ライオンズクラブ誕生

八 活力ある産業づくり……………七四〇

二一世紀に向けた端野農業／大型土地改良事業の竣工と新事
業／水田農業からの転換／担い手対策と新規就農／営農の新

たな試み／農家戸数の減少と主要作物／商工業の変化

九 新庁舎の建設……………七四五

庁舎建設に向けて／建設計画の策定へ／建設位置の混迷／消
防庁舎の建設／庁舎建設審議会の設置／建設位置条例案の否
決と位置決定／建設の開始から完成へ

一〇 合併による閉庁……………七五〇

最後の町議会／閉町式

第五章 相内……………七五四

第一節 相内三号駅通……………七五四

一 場所は東相内西二二号の西側にあり……………七五四

二 駅通の設置……………七五七

三 相内三号駅通の開設日……………七五八

四 「菅原兵藏」の本名は「菅原兵造」である……………七六〇

五 相内三号駅通は交易の場だった……………七六一

六 相内三号駅通の廃止……………七六三

七 相内三号駅通と土田清藏……………七六四

八 駅通廃止後……………七六五

九 相内三号駅通駅舎の最期……………七六五

一〇 菅原兵藏と二つの寺……………七六六

一一 菅原家の墓……………七六六

第二節 相内のはじまり……………七七〇

一 地名 アイヌ・オ・ナイ……………七七〇

二 屯田兵入植以前の住人……………七七〇

駅通取扱人／商業者／布教者

三 相内屯田……………七七一

相内屯田入植／土地の給与／厳しい教練／屯田兵村の生活／
屯田兵村自治／兵員及び家族教令について／屯田兵村開拓事
業／屯田兵村の環境整備／一般移民と屯田家族の独立

| | |
|---|-----|
| 決定／泉地区の留辺薬町編入運動／調停案 | 八二六 |
| 二 北見市の状況 | 八二六 |
| 合併への動き／泉地区の問題／留辺薬町との斡旋・調停 | 八二六 |
| 三 留辺薬町の状況 | 八二八 |
| 合併への動き／泉地区の編入 | 八二八 |
| 四 ふりかえって | 八二九 |
| 第四節 大合併以降の状況 | 八二九 |
| 第二章 平成の大合併 | 八三〇 |
| 第一節 情勢 | 八三〇 |
| 一 市町村の合併の特例に関する法律(市町村合併特例法) | 八三〇 |
| 趣旨規定の改正／住民発議制度の創設／議会議員の定数特例・在任特例の拡充／地方交付税の合併算定替の拡充／国・都道府県の役割の拡充 | 八三〇 |
| 二 行政改革から地方分権(市町村合併) | 八三一 |
| 三 バブル経済の崩壊 | 八三一 |
| 四 地方分権の動き | 八三二 |
| 五 あめとむち | 八三三 |
| 六 合併問題の加速 | 八三四 |
| 北海道市町村合併推進要綱／網走支庁管内市町村行財政検討会議／管内市町村長等の動き | 八三四 |
| 第二節 ブロック四町の共同研究組織 | 八三六 |
| 一 北見ブロック四町総務・企画課長会議 | 八三六 |
| 二 北見ブロック四町広域行政研究会 | 八三六 |
| 三 北見地域広域行政研究会 | 八三七 |
| 四 オニオンネット | 八三七 |
| 第三節 合併協議前の各市町の状況 | 八三八 |
| 一 端野町の状況 | 八三八 |
| 行政改革の取り組み／町総合計画／町議会の状況／市町村合併情報の収集と研究会参加／庁内研究組織／役場機構の配置／住民説明会等と住民の動き | 八四〇 |
| 二 常呂町の状況 | 八四〇 |
| 行政改革の取り組み／町総合計画等／町議会の状況／合併情報の研究会等参加／庁内調査研究組織の設置／住民説明会等と住民の動き | 八四一 |
| 三 留辺薬町の状況 | 八四二 |
| 行政改革の取り組み／町総合計画／町議会の状況／庁内機構の設置と合併情報の研究／常呂郡西部三町広域行政協議会／住民説明会と住民の動き | 八四四 |
| 四 北見市の状況 | 八四四 |
| 行政改革の取り組み／市総合計画／市議会の状況／市町村合併情報の収集と研究会参加／庁内調査研究組織の設置／住民説明会・講演会等 | 八四六 |
| 五 市町村合併を取巻く情勢変化 | 八四六 |
| 西尾私案の発表／統一選挙に臨む／地方交付税の現状／合併協議会設置へ傾斜 | 八四七 |
| 第四節 任意合併協議会 | 八四七 |
| 一 合併協議会とは | 八四七 |
| 二 北見・端野・常呂・津別任意合併協議会 | 八四八 |
| 準備会の設置／任意合併協議会の設立／財政見通しとまちなくり構想 | 八四八 |
| 三 北見・端野・常呂・津別・留辺薬町任意合併協議会 | 八五〇 |
| 四 合併協議会設置後の各市町の状況 | 八五一 |
| 北見市／端野町／常呂町／留辺薬町 | 八五一 |
| 五 各市町議会の状況 | 八五三 |
| 北見市議会／端野町議会／常呂町議会／留辺薬町議会 | 八五三 |
| 六 各首長(正副会長)の判断 | 八五五 |

| | |
|---|-----|
| 第五節 オホーツク圏北見地域合併協議会 | 八五六 |
| 一 設置準備 | 八五六 |
| 法定合併協議会設置に係る助役収入役会議／首長会議／各市町議会の議決 | 八五六 |
| 二 調印式 | 八五八 |
| 三 幹事会及び専門部会(分科会) | 八五八 |
| 四 合併協議会 | 八六〇 |
| 第一回協議会／第二回協議会／第三回協議会／第四回協議会／第五回協議会／第六回協議会／第七回協議会／第八回協議会／第九回協議会／第一〇回協議会／各市町議会の議決／調印／第一一回協議会／第二二回協議会／合併協定調印式／合併重点支援地域の指定／各市町議会の議決／第一八回正副会長会議／廃置分合(合併)の申請／第一三回協議会／道内の合併状況／新市に向けた合併準備事業に係る協定等／第一四回協議会／第一五回協議会／職員研修会／第一六回協議会 | 八六六 |
| 五 小委員会 | 八六六 |
| 議会・農業委員会検討小委員会／新市まちづくり計画検討小委員会／協定項目検討第一小委員会／協定項目検討第二小委員会／協定項目検討第三小委員会 | 八六八 |
| 六 住民への情報提供 | 八六八 |
| 協議会だよりの発行／新市まちづくり計画／新「北見市」暮らしのガイド | 八六八 |
| 七 各市町の状況 | 八七一 |
| 北見市／端野町／常呂町／留辺蘂町 | 八七一 |
| 第六節 関係団体の合併等 | 八七八 |
| 一 社会福祉協議会 | 八七八 |
| 二 商工会議所・商工会 | 八七九 |
| 三 シルバー人材センター | 八七九 |

第三章 旧市町から新「北見市」へ

第一節 旧市町の終わり

| | |
|--------------------------|-----|
| 一 最終の市町議会 | 八八〇 |
| 北見市議会／端野町議会／常呂町議会／留辺蘂町議会 | 八八〇 |
| 二 閉町式 | 八八一 |
| 端野町／常呂町／留辺蘂町 | 八八一 |
| 三 閉庁式 | 八八一 |
| 北見市役所／端野町役場／常呂町役場／留辺蘂町役場 | 八八一 |
| 第二節 新「北見市」の誕生 | 八八一 |
| 一 面積及び人口 | 八八一 |
| 二 開庁式及び開庁式 | 八八一 |
| 三 市長選挙及び市議会議員選挙 | 八八一 |
| 四 新北見市の体制 | 八八三 |
| 五 合併記念式典等 | 八八三 |

第五編 教育・文化・スポーツ

第一章 学校教育

| | |
|---|-----|
| 第一節 学校教育制度の歴史 | 八八五 |
| 一 教育制度の創始 | 八八五 |
| 学制発布以前／教育制度の創始 | 八八五 |
| 二 開拓期の教育 | 八八六 |
| 開拓期の小学校制度変遷／簡易教育における子守女兒教育／学校設置の苦難／屯田兵制度による学校建設 | 八八六 |
| 三 戦前の教育 | 八八九 |
| 戦争体制への教育／青年学校設立経緯とその目的 | 八八九 |
| 四 戦時下の教育 | 八九一 |
| 五 戦後の教育 | 八九二 |

戦前(時)教育の処理(解除)／戦時教育者等の除外／戦後入植地での学校開設／教育支援組織としてのPTA 八九四

六 高度経済成長期以降の教育 八九四

大学設置の動向／昭和後期から現在までの学校教育／学校運営における主任制度／ゆとり教育／学校教育における諸問題

第二節 小学校 八九七

一 常呂の小学校 八九七

常呂小学校／川沿小学校／錦水小学校／岐阜教育所／鑑沸教育所／錦水小学校／日吉小学校／吉野小学校／福山小学校／大茶苗教育所／幌内教授場／富丘小学校／登小

二 端野の小学校 九〇二

端野小学校／緋牛内小学校／川向小学校／北登小学校／忠志小学校／豊美小学校／協和小学校

三 北見の小学校 九〇五

西小学校／東小学校／中央小学校／若松小学校／大正小学校／上常呂小学校／開成小学校／常川小学校／豊地小学校／相内小学校／東相内小学校／上仁頃小学校／上仁頃尋常小学校／美里分校／下仁頃小学校／北陽小学校／西相内小学校／富里小学校／南小学校／南小学校川東分校／北小学校／三輪小学校／小泉小学校／高栄小学校／緑小学校／北光小学校／美山小学校

四 留辺蘂の小学校 九一〇

留辺蘂小学校／温根湯小学校／瑞穂小学校／大和小学校／金華小学校／上金華小学校／厚和小学校／富士見小学校／恵泉小学校／伊頓武華小学校

第三節 中学校 九一五

一 戦前の中・高等教育 九一五

野付牛町立女子職業学校／野付牛中学校

二 戦後の中等教育 九一八

常呂中学校／川沿中学校／錦水中学校／日吉中学校／富丘中学校／端野中学校／緋牛内中学校／川向中学校／北登中学校／忠志中学校／協和中学校／光西中学校／南中学校／東陵中学校／上常呂中学校／相内中学校／富里中学校／東相内中学校／北中学校／高栄中学校／小泉中学校／上仁頃中学校／仁頃中学校(下仁頃中学校)／北光中学校／留辺蘂中学校／温根湯中学校／瑞穂中学校／大和中学校／厚和中学校／恵泉中学校

第四節 幼稚園 九三九

幼保一元化／幼保一元化導入前の幼稚園／常呂幼稚園／端野若葉幼稚園／北見幼稚園／北見藤幼稚園／北見大谷幼稚園／北見さくら幼稚園／北見のぞみ幼稚園／北見聖母幼稚園／北見マリア幼稚園／北見ときわ幼稚園／北見高栄幼稚園／北見くるみ幼稚園／北見わかば幼稚園／北見北光幼稚園／留辺蘂みどり幼稚園／留辺蘂マリア幼稚園／企業内幼稚園の存在／北海道糖業(株)幼稚園

第五節 盲学校・聾学校・特別支援学校 九四四

一 盲学校・聾学校教育の義務化 九四四

養護学校と特殊学級／特殊教育の振興／特殊教育の内容の改善

二 養護学校の義務制実施への道 九四六

養護学校の整備計画と「義務化」政令／養護学校整備のための行財政施策／養護学校、特殊学級の発展

三 養護学校の義務制実施と養護学校の整備 九四六

養護学校義務制の実施／国際障害者年と障害者対策に関する長期計画／早期教育と後期中等教育の充実／軽度障害児の教育の充実／昭和五十四年の旨・聾・養護学校の教育課程の改訂／平成元年の旨・聾・養護学校の教育課程の改訂

四 養護学校設置への動き 九四八

北海道鷹栖養護学校きたみ学園分校／北海道紋別養護学校きたみ学園分校

たみ学園分校／北海道北見支援学校／北見市の特別支援教育

第六節 高等学校……………九四九

北海道常呂高等学校／端野村立農業学校／北海道北見北
斗高等学校／北海道北見柏陽高等学校／北見藤女子高等
学校(同中学校)／北海道北見仁頃高等学校／北海道北見
工業高等学校／北海道北見商業高等学校／北海道北見緑
陵高等学校／北海道留辺蘂高等学校

第七節 大学……………九五四

国立大学北見工業大学／北海学園北見大学／日本赤十字
北海道看護大学

第八節 各種学校・専修学校等……………九六〇

北見美容専門学校／北見商科高等専修学校(栗原学園)／
北見情報ビジネス専門学校／オホーツク社会福祉専門学
校／北見医師会看護専門学校／北海道立北見高等技術専
門学院／地方における特筆される教育実践例

第二章 社会教育……………九七一

第一節 社会教育の変遷……………九七一

社会教育の前身／新しい社会教育／社会教育法の制定／
社会教育活動／社会教育主事／生涯学習と社会教育／現
在の社会教育／北見地区の社会教育と社会教育施設

第二節 開拓期から戦時下まで……………九七四

- 一 社会教育 萌芽としての青年団活動……………九七四
- 二 各地域での青年会(団)活動……………九七六

第三節 戦後の社会教育……………九七八

- 一 混乱期から活動期……………九七八
- 二 四日クラブへの移行……………九七八
- 三 社会教育法の制定……………九七九
- 四 社会教育法と関連する諸法……………九七九

五 社会教育関連施設……………九八〇

公民館／図書館法／博物館法

公民館／生涯学習としての成人大学講座／図書館／北見地域
図書館相互の情報化／中央図書館の建設／博物館・研究組織
／東京大学大学院人文社会系研究科附属北海文化研究常呂実
習施設・常呂資料陳列館／ところ遺跡の館／ところ埋蔵文化
財センター／常呂町郷土資料館／昆虫の家／端野町歴史民俗
資料館／市立北見郷土博物館／北網圏北見文化センター／ピ
アソン記念館／ハツカ記念館／薄荷菘留館／上仁頃美里開拓
資料館／留辺蘂町開拓資料館／常呂町郷土研究同好会／端野
町郷土史研究会／北見郷土研究会／上仁頃美里郷土研究会／
留辺蘂町郷土研究会／文化財保護法と指定文化財／各地域に
所在する指定文化財の概要／社会教育における社会教育主事
の役割

第三章 文化……………九九七

第一節 開拓期から終戦まで……………九九七

- 一 さまざまな文化活動……………九九七
 - 二 青年会(団)の活動……………九九九
 - 三 その他の主なる文化活動……………九九九
- 音楽／美術／彫刻／書道／写真／演劇／劇場・映画館施設

第二節 安定から飛躍へ……………一〇〇四

- 一 戦後の文化活動……………一〇〇四
 - 二 常呂の文化活動……………一〇〇五
 - 三 端野の文化活動……………一〇〇六
- 文化連盟の主なる事業／「文芸芸端野」の発行／文化連盟事業の
功績者表彰／研修活動／文化連盟の隆盛
- 四 北見の文化活動……………一〇〇八
- 文化連盟の主なる自主事業／北見文化賞の制定／文芸北見の

発刊／北見市民大学講座／牛を食べて文化を語る集い／白言
忌・林白言文学賞

五 留辺蘂の文化活動 …………… 一〇二一

文化連盟の主なる自主事業概要／町民劇場の実施／野外劇の
開催／総合文化祭

六 現在の主なる文化団体の活動 …………… 一〇二三

音楽／美術／書道／演劇／劇場・映画館施設／文化活動を取
り巻く課題

第四章 体育・スポーツ …………… 一〇一八

第一節 開拓期から終戦まで …………… 一〇一八

一 開拓期以降 …………… 一〇一八

二 戦後から昭和三十年代中葉まで …………… 一〇一九

第二節 安定から隆盛期へ …………… 一〇二〇

一 スポーツ振興法の影響 …………… 一〇二〇

二 各地域の体育協会及び行政による施設整備 …………… 一〇二二

初期の体制などの動き／各地域の体育施設／常呂町スポーツ
センター／端野町農業者トレーニングセンター／北見市宮野
球場から北海道立体育センター／温根湯温泉スポーツセン
ター・留辺蘂町体育館

第三節 地域代表となった主な競技種目 …………… 一〇二四

一 高等学校等の沿革 …………… 一〇二四

二 国際大会に出場し活躍した個人・団体の実績 …………… 一〇二五

第四節 各地域での特色あるスポーツ …………… 一〇二七

一 常呂マラソン合宿 …………… 一〇二七
合宿チームの増加とその沿革

二 カーリングの町で地域活性化 …………… 一〇二九

カーリングの由来と道内普及／常呂での個人・他による普及
活動と各種大会への出場／LS北見の結成とオリンピックで

の銅メダル獲得

三 端野における剣道の復活と振興 …………… 一〇三一

四 北見でのスポーツ振興と関係事業の概要 …………… 一〇三一

スポーツ合宿とスポーツピア構想／モイワスポーツワールド
構想の着手／ホクレン・ディスタンスチャレンジ北見開催の
概要

五 留辺蘂での弓道を中心とした街の活性化 …………… 一〇三三

六 各地域での特色あるマラソン大会 …………… 一〇三四

サロマ湖一〇〇キロウルトラマラソン／お年寄りのマラソン
大会／運動会

七 スポーツにおける今後の課題 …………… 一〇三五

凡例

『新北見市史』上巻 執筆担当者一覧

- 一 本史は、刊行済みの『北見市史』『新端野町史』『常呂町百年史』『新留辺蘂町史』を基本に新たな事象を加え編集をした。
- 二 本史は『新北見市史』「上巻」「下巻」「年表編」「資料編」全四巻のうち「上巻」である。
- 三 年代表示は、原則として元号（和暦）を用い、必要に応じて西暦を（ ）内に入れて示した。
- 四 数字の表記は、一〇、一一、一二、一三・・・とした。（和暦の年月日の表記を除く）
- 五 史書の例にならって人名はすべて敬称を略した。
- 六 記述は努めて平易なものとし、「である」の口語体を用い、学術用語等を除いて極力、常用漢字・現代仮名遣いを使用し、必要に応じふりがなを付した。
- 七 資料等の引用にあたっては、原則として別行・字下げとした。文中においては引用文に「」を付し明示した。
- 八 参考・引用文献は各編の各章の執筆分担者ごとにまとめ、『』または「」を付して出典を示し、文末に掲載した。なお、一部については、本文中に掲載したものもある。
- 九 編集にあたっては正確を期するよう努めたが、新たな史料等の発見に至らず、判明することができなかった事象については併記をした。なお、今後の調査と研究を要することも少なくない。
- 一〇 本史執筆にあたっては、担当分野の執筆者の意向を尊重し、原則として表現や表記等については統一を図るよう務めたが、その限りではない。執筆分担者を次に示す。

| | | |
|-----|-----|----------------|
| 序編 | 第一章 | 田丸 誠（編集委員） |
| 第一編 | 第二章 | 齊藤 幸喜（市史編さん主幹） |
| 第一編 | 第三章 | 中村 雄紀（協力員） |
| 第一編 | 第四章 | 熊木 俊朗（編集委員） |
| 第一編 | 第五章 | 中村 雄紀（協力員） |
| 第一編 | 第六章 | 熊木 俊朗（編集委員） |
| 第一編 | 第七章 | 中村 雄紀（協力員） |
| 第二編 | 序章 | 熊木 俊朗（編集委員） |
| 第二編 | 第一章 | 佐々木 覺（編集委員） |
| 第二編 | 第二章 | 福澤 明（編集委員長） |
| 第三編 | 第三章 | 田丸 誠（編集委員） |
| 第三編 | 第四章 | 田丸 誠（編集委員） |
| 第三編 | 第五章 | 佐々木 覺（編集委員） |
| 第三編 | 第六章 | 福澤 明（編集委員長） |
| 第三編 | 第七章 | 田丸 誠（編集委員） |
| 第四編 | 第一章 | 菅 一男（編集委員） |
| 第四編 | 第二章 | 石井 健一（副編集委員長） |
| 第四編 | 第三章 | 石井 健一（副編集委員長） |
| 第四編 | 第四章 | 扇谷子エ子（専門委員） |
| 第四編 | 第五章 | 夏井留美子（編集委員） |
| 第四編 | 第六章 | 石井 健一（副編集委員長） |
| 第四編 | 第七章 | 石井 健一（副編集委員長） |
| 第五編 | 第一章 | 久保 勝範（編集委員） |
| 第五編 | 第二章 | 久保 勝範（編集委員） |
| 第五編 | 第三章 | 久保 勝範（編集委員） |
| 第五編 | 第四章 | 久保 勝範（編集委員） |
| 第五編 | 第五章 | 久保 勝範（編集委員） |
| 第五編 | 第六章 | 久保 勝範（編集委員） |
| 第五編 | 第七章 | 久保 勝範（編集委員） |
| 第五編 | 第八章 | 久保 勝範（編集委員） |